

2017年度

秋吉台お花畑プロジェクト

共催：秋吉台エコ・ミュージアム
協力：秋吉台青少年自然の家

草丈が高くなった場所で草刈りし秋の花を増やす



草丈が1.2mほどあったので、結構な作業量となりました。刈った草は軽トラックに4台分でした。

10月の観察会は、天気予報に反して、集合場所付近のみ強い雨が降っていました。そこで急遽予定を変更して、秋吉台エコ・ミュージアムに移動し、室内での座学を行いました。調査報告の後は質問タイムでしたが、最後は参加者それぞれからたくさんの方の発言もあり、活発な「お話し会」となりました。野外ばかりではなく、たまにはこういうのもいい、という声も聞かれました。

草原の復元プロジェクト

外来植物を抑え在来植物の草原を再生する



1回目の草刈りで持ち出したのは軽トラック2台と半分。ずいぶん草の量が減りました。2回目の草刈りは、前週に開催の予定が台風のため延期になりましたが、延期前よりもたくさんの申し込みがありました。ここでの草は軽トラック3台分。作業もずいぶん早く進んで、開会から閉会までがおおよそ2時間でした。草を刈って持ち出す区域のスキが劇的に増え、景色もスキ草原に近づいてきました。

山焼き応援プロジェクト

ヤブ刈りや燃え残り整備で山焼きを応援する



今回から厳密に“公有地”にて火入れをすることになり、ひとつに集められた草が大きな山を作っていました。クヌギの下は燃えないので、できる範囲で草を刈り倒しました。次に移動したクリ園跡地ではクズのつるがからまり、草刈りも大変でした。

学校の草原学習



美祿市立秋吉小学校 (全4回：自然観察と草刈り体験、草刈り跡および山焼き後の自然観察)



山口農業高校 (草刈り体験)

トピックス



山口県より、平成29年度山口県環境保全活動功労団体として表彰していただきました。(11月14日)

2018年度

秋吉台お花畑プロジェクト

共催：秋吉台エコ・ミュージアム
協力：秋吉台青少年自然の家

草丈が高くなった場所で草刈りし秋の花を増やす



3年に1回の草刈りでは草丈を抑えられず、いつも丈の高い草を刈るようになります。ここは草を斜面上方に運び上げなくてはならないので余計に大変でした。観覧会は台風襲来のため1日延期し、「草原の復元作業2」のあとに続けて短時間で開催しました。今年は猛暑のためか、草刈り跡の花の数は例年より少なかったです。ただ、草刈りをしない場所よりは花が多いという状況は変わりませんでした。

草原の復元プロジェクト

外来植物を抑え在来植物の草原を再生する



7月でもすでに草丈は例年より15cm以上高く、集めた草の山がいくつもできていました。集めた草は軽トラックに山盛り3台分になりました。夏が猛暑だったためか草丈は低く、9月の草刈りの際は軽トラック2台分しかありませんでした。開始から1時間程度で作業も終わり、いままですら最短の行事となりました。

学校の草原学習

春の自然観察



草刈り体験



山焼き後の観察



美祿市立秋吉小学校（全3回：自然観察と草刈り体験、草刈り跡の観察）

こんな花が咲きました

初夏の草刈り跡には秋までに再生した茎から花が咲きます。秋吉小学校の草刈り跡地では9月のなかばから8種類の花が咲きました。



子どもガイドの題材に



3年生以上が取り組む「ふるさと子どもガイド」で、観察した草花や草刈り体験のことを観光客に披露していました。

2019年度

秋吉台お花畑プロジェクト

共催：秋吉台エコ・ミュージアム
協力：秋吉台青少年自然の家

草丈が高くなった場所で草刈りし秋の花を増やす

有志による
草刈り
(7月27日)



一昨年まで高校生が草刈りをしていた場所です。すでにオミナエシの茎が伸びていました。



雨で一度中止になったため、有志を募っての作業でしたが、予定よりたくさんの方が来て下さいました。



草を束ねるのもお手のもの。どんどん作業が進んでいます。



刈った草は地元の畑に運んで、サトイモの根元に敷きつめられました。



こちらの草は遠くから参加してくださった畜産農家さんに。牛たちは喜んでくれたでしょうか。



広い面積で、人数のわりには草の量が多めでしたが、無事に作業は終了しました。

草刈り跡の
観察会
(10月5日)



例年よりかなり多くの参加者がありました。草刈り跡までの道中で花や虫も観察しました。



草刈り跡ではグループに分かれて、花の数を数えてみました。



花や虫に詳しい方がいて、数える合間にはいろいろな説明をしていただきました。



恒例のオカリナ鑑賞タイム。草原の中で聴く音色はとても素敵でした。



刈った草を使って育てたサトイモを収穫させていただきました。大きなサトイモにびっくり。美味しかったという声多数。



今回は、草を使うこと、草刈りで保たれる生きものの世界、すべてを体験していただくことができました。

草原の復元プロジェクト

外来植物を抑え在来植物の草原を再生する

復元作業1
(7月7日)



作業も12年目。刈り払い機を使う人、草を集める人、自然と役割ができ、作業手順も決まっています。



草丈がだんだん低くなってきているので、あっという間に草刈りがすみ、並行して草を集めていきました。



刈った草をそのまま置いておく区域では機械を存分に使って刈っていきます。それでも安全に進むのはみなさんの技術のおかげ。



刈った草を持ち出す区域では軽トラに草を積み込みます。これが結構な重労働。



昨年から出現したカキランはまた刈り残していたいただきました。花を囲んで話がはずんでいました。



調査結果をお話して、作業の成果を共有します。努力の成果が目に見えるというのはとてもうれしいことです。

復元作業2
(9月28日)



7月に続き二度目の作業。夏の気象のおかげか草丈はいつもより低めでした。



見事な草刈り風景。秋晴れの中、それぞれのペースで作業していただきました。



新しい参加者も頑張ってくださいました。年齢も住むところもさまざま。でも目標はひとつというのがいいですね。



外来植物の混じった草ですが、これを野積みして腐熟させると、善玉菌を多く含むとてもよい堆肥になります！



軽トラに積み込む時も、率先して草を整理して下の方がいるので作業がスムーズです。



こちらは刈った草を放置する区域。秋のセイタカアワダチソウは茎が硬いので大変でした。